「東アジアの人文知」主催

第3回国際フォーラム「越境する人文知」

2016年7月27日（水）

戸山キャンパス39号館5階第5会議室

7月27日（水）午前10時30分から戸山キャンパス39号館5階第5会議室にて、総合人文科学研究センター研究部門「東アジアの人文知」主催の第3回国際フォーラム「越境する人文知」が開催された。

第三回目を迎えたこの国際フォーラムではこれまで最も多くの訪問学者・交換研究員の方々に研究成果を発表して頂き、共に議論し学術交流を行った。第三回目は早稲田大学文学学術院の鳥羽耕史教授の開会挨拶から始まり、総勢10名の研究者が順次研究発表を行った。発表者、コメンテーターは次の通りである。（敬称略）

発表１：郭蓉菲（中南大学）
「「たち」/“们”の数量詞との共起について」
（司会、森山卓郎、コメンテーター：呂妍）
発表２：王亜楠（早稲田大学研究生）
「司馬遼太郎の文学出発点――『ペルシャの幻術師』を中心に」
（司会：陳瀟媛、コメンテーター：鳥羽耕史）
発表３：キメンティ・パトリック（コロラド大学）
「安部公房の小説における唯物論とイデオロギーについて」
（司会：鳥羽耕史、コメンテーター：荻堂志野）
発表４：バーネット・ターニャ（UCLA）
「村山槐多の「殺人行者」と本格的個人の創作」
（司会兼コメンテーター：ベンダー・キャサリン）
発表５：高野真理子（UCLA）
「Organization and Avant-garde—Hanada Kiyoteru in Wartime and Postwar—」（英語発表）
邦題：組織とアヴァンギャルド　—花田清輝の戦中と戦後—
（司会兼コメンテーター：橋本あゆみ）
発表６：ヤニック・モフロワ（INALCO）
「島尾敏雄を照らすプルースト ――『失われた時を求めて』第五篇の『囚われの女』と島尾敏雄『死の棘』との比較的解釈の可能性」
（司会：大嶋さやか、コメンテーター：山田宗史）

発表 7：タリヤルヴ・マルギス（早稲田大学博士後期課程）
「良妻賢母イデオロギーと〈少女〉たち
　――太宰治「燈籠」「恥」「律子と貞子」を中心に」
　（司会：隅田由貴子、コメンテーター：田部知季）
発表 8：陳竺慧（早稲田大学博士後期課程）
「野村篁園の填詞に見る『詞綜』の受容について」
　（司会、コメンテーター：石ますみ）
発表 9：鄧剣（上海大学博士後期課程）
「初期中国 PC ゲームの変容：「中国イメージ」を中心に」
　（司会兼コメンテーター、千野拓政）
発表 10：景欣悦（南開大学博士後期課程）
　（司会兼コメンテーター、千野拓政）

各研究者の発表の後は質疑応答、意見交換が行われ、部門代表者の千野拓政教授の閉会挨拶を持ち、午後 6 時 30 分頃に終了した。第三回のフォーラムも多くの国の研究者による興味深い発表、活発な議論が行われた盛会となった。なお、閉会後懇親会を行い、さらに交流を深めた。

（報告：張勝蘭）